

「東京都豪雨対策検討委員会」（第１回） 議事要旨

■日 時：令和４年８月１日（月） 午前１０時３０分から

■場 所：東京都庁第二本庁舎１０階 一般会議室２０７・２０８

検討委員会での主な意見

○ 降雨データ等について

- ・ 近年の全国における降雨の状況（総雨量だけではなく、雨の集中度が非常に高くなっている）や、都内の降雨特性等も考慮して、検討してほしい

○ 不確実性の考慮について

- ・ 国の考え方を横引きして降雨変化倍率 1.1 倍を考慮するだけでなく、外力の持つ不確実性を考慮して議論することが必要
- ・ 対策状況によってリスクは異なり、ゼロリスクとなることはない。都民などに不確実性やリスクの幅を認識してもらえよう、示し方も重要
- ・ 目標降雨への対策だけではなく、甚大な被害が発生するような極端な豪雨への対策についても検討した方が良い

○ 今後の取組及び役割分担について

- ・ 地域別に現状を整理した上で、望ましい役割分担や効果的な対策について検討を行うと良い。その際、ある程度のリスクは受容してもらうという考え方も必要
- ・ 流域治水の視点も踏まえ、各施策、各部局間の連携により効果を発揮できる取り組みを検討すると良い
- ・ 緩和策にも適応策にもなり相乗効果が得られる取組についても検討すると良い
- ・ 現在は手法が確立していない取組でも試験的に実施してみる取組も必要
- ・ 新しい対策をすることだけが対策強化ではなく、今まで義務でない取組に義務や努力義務を課すなどによる対策レベルの強化も有り得る

○ 減災対策について

- ・ 地下街など地下施設の浸水等による人的被害をなくす対策が減災という観点では必要
- ・ 洪水と高潮、地震と洪水など複合災害についても考慮することが必要
- ・ 高齢者など災害弱者に対してもきちんと情報が届くような工夫が必要

○ 強化するエリアの設定について

- ・ 浸水や洪水により社会生活が麻痺したり、生活基盤が損なわれたりしないよう、重要なインフラや行政機関があるところで対策を行うなどの優先順位の決め方もある

○ 事業効果について

- ・ 今後、ハード対策・ソフト対策とも、わかりやすい効果の見せ方を検討した方が良い
- ・ あらゆる関係者が関わることから、指標管理を徹底した方が良い。そのため、各々の指標が何なのか、その指標はどうすれば改善するのかを議論できたら良い
- ・ 河川や下水道など様々な事業を実施した結果について、総合的に評価できると良い